

生徒向け

九中図書館だより

文京区立第九中学校図書館

令和3年7月 第4号

学校図書館支援員 蛭田康寿子



梅雨に入り、すっきりしない天気が続いています。からりと晴れた夏空が待ち遠しいですね。晴れた夏空と言えば、7月の行事「七夕」が思い浮かびます。7月7日の夜に、なぜ短冊に願い事を書いて笹につるすのでしょうか？一説では、「七」は陰陽道では「陽」の数であり、この「七」が重なる日はとても縁起が良く、どんな願いも成就すると言われていたからだそうです。7月1日から九中図書館では、図書館前の廊下に笹を飾ってあります。短冊を置いてあるので、図書館に寄るついでに願い事も書きに来てください。



夏休みの特別貸出が始まります!!

貸出期間 5日(月)~19日(月)

貸出冊数 5冊まで

※5日(月)までに今借りている本を全て返却した人に限ります

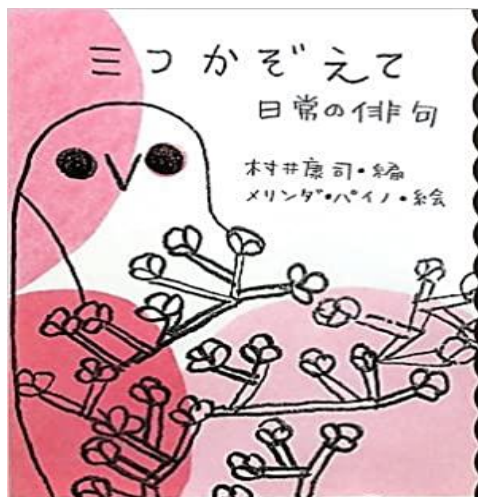
※期間中は5冊までなら何回でも借りることができます

開館日 月曜日 ~ 金曜日

開館時間 昼休み 13:00~13:20

放課後 学活終了後~16:30

今月のオススメ本



『三つかぞえて 日常の俳句』

村井康司・編 岩崎書店 【911ミ】

「めくってびっくり俳句絵本」というシリーズの1冊です。四季の日常の一部を切り取った俳句に、とても可愛い鳥から見た風景が描かれています。全てのページに折り目があり、開くと俳句の解説が出てきます。

「七夕や 電送されし 人の恋」

この俳句がどんな絵で飾られているか、ページをめくってみたくありませんか？





戦争について考えよう



8月15日の「終戦の日」を前に、皆さんに戦争について考えて頂きたく思い、図書館内に『戦争についての本』の特集コーナーを設けました。

戦争において、どこが悪い・悪くないを決めることは、とても難しいことです。皆さんには、戦争中に何が起こったか、戦争がどれほど悲惨で恐ろしいかを、本を通して知った上で、忘れないでいてほしいと願っております。

どうぞ図書館に来て、戦争に関する本を読んでみてください。

「ユダヤ人」だという理由で、仕事も家も心の自由も名前も、命さえも奪われた人々がいます。死が当たり前になり満ちていた世界でも、パンと水だけでは人間は生きていけないと感じていた人たちが残した記録は、何年経っても私たちの心に訴えかけるものがあります。

『チェロを弾く少女アニタ』 アニタ・ラスカー・ウォルフフィッシュ 【94ラ】

『アンネの日記』 アンネ・フランク 【94フ】

『ちいさな命がくれた勇気』 キャシー・ケイサー 【31ケ】

『名前をうばわれた少女』 ジョアン・M・ウルフ 【93ウ】

『アウシュビッツの図書係』 アントニオ・G・イトゥルベ 【96イ】

『マーシャの日記』 マーシャ・ロリニカイテ 【98ロ】

…そのほか、多数展示本があります。
ブックリストも用意してあります。



新刊入りました！

『キリギリスのしあわせ』 トーン・テレヘン著 【94テ】

『はこ』 小野不由美著 nakaban 絵 【913オ】

『スマホに届いた怖い話』 藤白圭著 【913フ】

『なぜ銅の剣までしか売らないんですか？』 エフ著 【913エ】

『必ず役立つ吹奏楽 からだメンテナンス編』 丸谷明夫著 【76カ】

『氷河鼠の毛皮』 宮沢賢治著 堀川理万子絵 【913ミ】

…そのほか、全部で40冊！

